

船舶事故調査報告書

平成22年7月29日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成22年4月15日 14時30分ごろ～15時40分ごろの間）
発生場所	北海道 ^{あつけし} 厚岸湖
事故調査の経過	平成22年4月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	漁船 ^{じっぽう} 実宝丸、0.4トン HK3-120845（漁船登録番号）、個人所有 5.18m(Lr)×1.60m×0.63m、FRP ガソリン（船外機）、漁船法馬力数30、平成10年4月 船長 男性 73歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和50年11月28日 免許証交付日 平成19年11月6日 （平成25年6月16日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	船長は、平成22年4月15日14時30分ごろ、かれい刺し網漁に行くと言って、自宅を出た。 僚船Aは、厚岸湖内での操業を終え、厚岸港に向け帰航中、15時40分ごろ、厚岸港南防波堤灯台から真方位056度2.6海里付近において、無人のまま漂流中の本船を発見した。 僚船Bは、本船をえい航した僚船Aとともに、船長を捜索しながら帰航中、15時45分ごろ、本船発見場所の南西方150m付近で、黄色い救命胴衣を着用し、顔を水に浸けて、うつ伏せの状態で見つかる船長を発見した。 僚船Bは、船長を船内に収容し、厚岸港に向かうとともに、携帯電話で、救急車を要請した。 船長は、搬送された病院で、死亡が確認された。 船長の死因は、溺水による窒息と検案された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 5 海象：波向 南西、波高 約0.5m、水温 約1℃ 特記事項：釧路南東部に強風波浪注意報発表中

<p>その他の事項</p>	<p>事故当日、厚岸湖には風速約10m/sの南西風が吹き、湖面には白波が発生していた。</p> <p>刺し網漁に従事する漁船の出漁の可否は、各船船長が、それぞれ判断していた。</p> <p>発見された本船は、船内に投網前の刺網3、4本が残され、船外機はアイドリング状態で、外板等に損傷は見られなかった。</p> <p>船長の身体に、外傷やロープが絡んだ痕等はなかった。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 なし あり</p> <p>船長の死因は、溺水による窒息死であった。</p> <p>本船は、船長が自宅を出た14時30分ごろ以降に厚岸港を船長1人が乗船して出航後、15時40分ごろ厚岸港南防波堤灯台北東方沖において操業状態である無人の本船が漂流しているところを発見されていることから、この間において落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>本事故当時、厚岸湖は、湖面に白波が発生する状況であったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が湖面に白波の発生する厚岸湖において操業中、船長が落水したことにより発生したものと考えられるが、落水した原因を明らかにすることはできなかった。</p>	